

本日の目的：全国統一の際に決め手となった物資について理解を深める。

○ヨーロッパ人の海外進出 …1\_\_\_\_\_ (15C末～16C)

**要因** ①航海術の進歩 〈例〉 羅針盤 ②都市・商業の発達(重商主義政策)  
③東方貿易路の確保 ←香辛料などの需要・オスマン＝トルコの進出

{ 2\_\_\_\_\_ …コロンブス(イタリア人)が西インド諸島へ(1492年)  
    ➡マゼラン一行が世界一周 ➡フィリピンの3\_\_\_\_\_を拠点  
4\_\_\_\_\_ …ヴァスコ＝ダ＝ガマがインド航路発見(1498年)  
    ➡インドの5\_\_\_\_\_, マレー半島の6\_\_\_\_\_, 中国の7\_\_\_\_\_を拠点

○鉄砲の伝来 (1543年)

・ 8\_\_\_\_\_人を乗せた中国人倭寇の船が9\_\_\_\_\_に漂着  
    ➡島主、種子島時堯は火縄銃2挺を購入 ➡使用法と製造法を学ぶ

○国内生産の開始 (1545年)

・ 種子島に伝来した鉄砲を基に、各勢力が国産化に向けた動きを活発化  
    ➡和泉の10\_\_\_\_\_, 紀伊の11\_\_\_\_\_・雑賀、近江の12\_\_\_\_\_  
堺・・・商人勢力(橘屋又三郎が種子島に渡り、鉄砲製法を習得)  
根来・・・寺社勢力(根来寺の僧、津田算長は腰差を持ち帰り、製法を研究)  
国友・・・武家勢力(将軍の命を受けた細川春元が国友善兵衛に制作依頼)

☆鉄砲の国産化に携わった技術者たち

- A \_\_\_\_\_ : 種子島時堯<sup>ときたか</sup>の命を受け、わずか2年で国産化に成功。  
B \_\_\_\_\_ : 堺の商人。金兵衛から直接、技術を習得。その後、堺へ戻る。  
C \_\_\_\_\_ : 細川氏の命を受け、将軍足利義晴に献上された鉄砲を手本とし  
    国産化に成功  
D \_\_\_\_\_ : 津田算長が持ち帰った鉄砲を手本とし、国産化に成功

○火縄銃に使用された火薬

・ 黒色火薬＝13\_\_\_\_\_ ・ 14\_\_\_\_\_ ・ 15\_\_\_\_\_  
    ➡国内では、16\_\_\_\_\_が産出しないため、当初は中国からの輸入に依存

○硝石の生産方法

- ・ 17\_\_\_\_\_法：鉄砲とともに伝来。作業工程が簡単のため多くの地域で活用されたが大量生産には向かなかった。  
・ 18\_\_\_\_\_法：19\_\_\_\_\_で行われていた生産方法。長い間、製法は秘匿されていた。人工的に硝石の原料を産出することで大量生産が可能に

## ○火縄銃に使用された鉄砲玉

- ・鉄砲玉のほとんどは20\_\_\_\_\_製

理由①21\_\_\_\_\_（融点が高い） ➡鉛：\_\_\_\_\_℃ 鉄：\_\_\_\_\_℃

②安価 ➡ 鉱石から精錬するのが容易

③22\_\_\_\_\_（密度が大きい） ➡鉛：11.35g/cm<sup>3</sup> 鉄：7.87g/cm<sup>3</sup>

④殺傷能力が高い ➡ 硬度が低く、人体に当たると貫通せずに潰れて広がるため。

➡ 戦国時代の鉄砲玉は、国産の鉛だけではならず、中国や東南アジアなどの海外からもたらされた鉛も使用されていた。

## ○鉄砲、硝石、鉛の代金となった銀（石見銀山の場合）

- ・日本で行われていた銀の精錬技法では、純度が低く、非常にコストがかかった。

➡ 島根県の23\_\_\_\_\_銀山では純度の高い鉱石を朝鮮半島に送って精錬していた。

↓

- ・博多商人24\_\_\_\_\_が朝鮮から宗丹と慶寿を招き、25\_\_\_\_\_法の技術伝来

➡ その後、各地の銀山に技法が伝播する ➡ 26\_\_\_\_\_へ

## ○南蛮貿易の開始

27\_\_\_\_\_貿易 ※28\_\_\_\_\_人…ポルトガル人・スペイン人を指す

➡ 主に29\_\_\_\_\_との貿易 ※スペイン船の来航は1584年(平戸)

➡ 貿易港30\_\_\_\_\_・31\_\_\_\_\_・32\_\_\_\_\_ ← 京都・堺・博多などの商人も参加

・輸出品33\_\_\_\_\_・刀剣・漆器・海産物

・輸入品34\_\_\_\_\_・鉄砲・35\_\_\_\_\_・絹布(中国産)・など

➡ 原料：硝石（日本では産しない）・硫黄・木炭

・特徴・36\_\_\_\_\_貿易…日明貿易にかわる<例>ゴア ⇄ マカオ ⇄ 日本

・37\_\_\_\_\_ ※布教を許可した大名の領内に寄港

## <本日のまとめ>

- ・火縄銃は16世紀中ごろに種子島に伝来し、短期間で国産化が可能となり、堺、根来、国友が一大生産地となった。
- ・黒色火薬の原料であった硝石は、国内に産地が存在しなかったため、海外産に依存していた。国産の硝石は生産量が少なかったが、一部地域では大量生産に成功
- ・鉛は鉄砲玉、銀精錬に必須だったため需要が急速に高まり、海外産も多用された
- ・灰吹き法の伝来により、銀の生産量が増加し、海外との交易が一層活発となった

つまり……………

交易・貿易を制する者が天下を制す！